



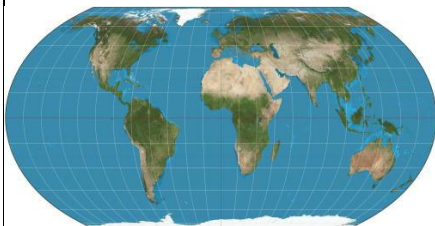
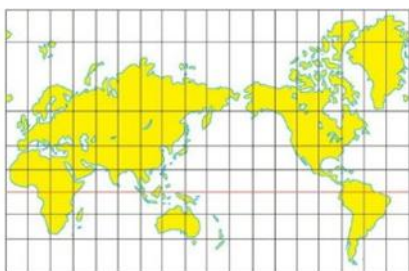
『小さな世界』

日本語詞：岩谷 和子
作曲：R&R.シャーマン

世界中どこだって
笑いあり涙あり
みんなそれぞれ助け合う
小さな世界
※世界は狭い 世界は同じ
世界は丸い ただ一つ

世界中誰だって
ほほえめば仲良し
みんな輪になり手をつなごう
小さな世界
※くり返し

メルカトル図法



イコール・アース図法

イコール・アース図法

校長 蒲谷 猛

突然ですが、「イコール・アース図法」ってご存知ですか。地図図法の一つですが、「図法」というと、中学・高校の地理で、メルカトル、モルワイデ、サンソン、グードとかは学習した覚えがあるけれど、「イコール・アース」は聞いたことがないという方も多いかも知れません。私は、中学校・高校の教員免許状は社会科ですけれど、恥ずかしながらついこの間まで知りませんでした。

世界地図は、球体である地球の表面を、平面である紙上に表すので、どうしても歪みが生じます。そのため、経線に対しての角度が正しくても面積が正しくないとか、面積が正しくても方位が正しくないとか長所と短所があります。掲示用の世界地図としてよく見かけるのが、メルカトル図法ですけれど、この図法では、赤道付近に比べて、北極・南極に近づくほど面積が大きくなってしまいます。

その結果、例えば、グリーンランドとアフリカ大陸がほぼ同じ大きさであるかのように描かれてしまいます。

このことは、単なる地図上の歪みだけでなく、人々の認識にも歪みを生じてしまうことにもなります。欧州諸国や北米が大きく描かれる地図を多く目にするにより、アフリカや南米を過小評価してしまうことにつながってしまうことが危惧されるということです。実際は、アフリカの面積は、グリーンランドの14倍あり、アメリカ、中国、インド、日本、EU加盟国を合わせた領域よりも大きいって、皆さんも知っていましたか。

アフリカ連合(AU)やAU加盟国が、「アフリカの本当のサイズ」を示す地図の普及を後押しする取組を始めているということも、ニュースで知りました。ここで登場するのが「イコール・アース図法」。「イコール・アース図法」の地図に積極的に置き換えていくことで、アフリカをただしく評価してもらおうとしているのだそうです。NASA、世界銀行、グーグルなどが早速この運動に共鳴し、取組を始めていることも知りました。

話はかわりますが、今週の月曜日には、JICAの研修員の方々が本校の視察にご来校くださいました。日本の小学校教育を知りたいということでの視察ですが、来校された14人の世界からの研修員のうち、約半数がエジプト、ケニア、ナイジェリア、セネガル、ザンビアといったアフリカ諸国の方々でした。授業参観中に、英語の授業で子どもたちと会話してくださったり、給食を一緒に食べてくださったりした経験は、本校の子どもたちにとっても、直接的な交流ができた貴重な機会だったと考えています。地図を置き換える取組にも賛同しますが、人と人との直接的な出会いやかかわり合いが、必ず相互理解・相互尊重・共生の意識醸成につながると思うからです。

今月下旬には、「HARA ENGLISH FESTIVAL」がおこなわれます。人とつながるツールである英語の価値や人とかわる喜びを実感することをねらいとした本校が大切にしている特色ある行事です。ネイティブや横浜隼人高校国際語科高校生とはもちろんのこと、日頃ともに生活をしている子ども、職員とも、改めてコミュニケーションを楽しみ、心を通わせる一日にしたいと思います。